

〔基本方針 2〕

本・人・文化を結ぶ図書館（結ぶ） 自主的な学習意欲を高め、新しい活動を醸成していく -

市民一人ひとりが生涯にわたって、自己を高め、豊かな人生を送ることができるようサポートする、身近な学びの施設が図書館です。人は、新たに本や文化に出会うことで、学習する意欲を高め、また、新たな活動を始めることが期待されています。特に、子どもたちには、そうした出会いが幼少の頃からふんだんに用意されていることが望まれます。

そうしたことから、図書館は、本と人と文化を結ぶ場を積極的に提供していく「結ぶ」図書館の実現を目指します。

〔施策の方向性〕

(1) 新たな文化との出会いの場の提供

市民の読書に対する関心や学習意欲をさらに高め、また、市民が新たな活動に取り組むきっかけづくりとして、講座、展示、体験学習など、「人と本」「人と人」「人と文化」の新たな出会いの場を充実させていく。

講演会や展示などの充実

図書館では、これまで読み聞かせや映画会の開催、講座、展示の企画などに積極的に取り組んできました。

今後も、図書館を利用されたことがない方にも図書館に関心を持っていただけるよう、文化人や専門家などによる講演会や、社会の動きや市民の関心の高いテーマに関する展示など、普及事業に積極的に取り組んでいく。また、その内容や時期などをより一層工夫して、普及事業の充実を図る。

テーマ別の図書展示の充実

図書館では、時の話題や季節の行事などを踏まえて、テーマ別に図書を展示したり、そのリストを配布するなど、市民と図書との出会いを広げるよう努めている。

今後も、社会の動きなども考慮しながら、幅広い分野にわたりテーマを設定するなど、工夫して図書の展示やリストの配布を実施していく。

図書館見学や職場体験の充実

図書館では、図書館の仕組みや魅力がより多くの人に広まるよう、図書館を見学して仕事をする司書体験を、小学生から大学生を対象に行っています。

今後も、様々な利用者層に応じた館内ツアーの実施など、そうした取組の充実を図っていきます。

(2) 誰もが利用しやすい施設の整備とサービスの充実

札幌市立図書館は、建築後相当の年月が経過したものが多く、子どもや高齢者、障がいのある方への対応が十分でない面がある。

図書館が身近な学びの施設として、子どもから高齢者まで、そして障がいのある方も、誰もが気軽に、そして快適に利用できるよう、ハード、ソフトの両面にわたってユニバーサル化を図る。

ユニバーサル化の推進

老若男女の差異、障がいの有無などを問わず、誰もが利用することができるようユニバーサルデザインの視点を持って、エレベータやオストメイトの設置など設備の充実に努めるとともに、色彩やイラストなどを工夫して、分かりやすく、見やすい案内表示に改善していく。

電算システムの更新

蔵書検索システムの操作手順や項目、表現や速度などを改善することにより、高齢者や障がいのある方を含め、誰もが目的の情報をより簡単に見つけることができるよう、また、今後の電子書籍貸出サービスへの対応も踏まえて、電算システムの更新を図ります。

高齢者・障がいのある方向けの資料の充実と利用環境の整備

これまで高齢者や障がいのある方へのサービスとして、大活字本や拡大写本、大型絵本などの収集、拡大読書器の設置、郵送・宅配貸出などを行ってきた。

今後もこれらのサービスの充実を図るほか、高齢者や障がいのある方にとっても使いやすい検索環境とするため、蔵書検索システムの更新などを行っていきます。

視聴覚障がい者情報センターとの情報の共有と発信

これまで視聴覚障がい者情報センターの録音図書や点字図書を中央図書館でも貸出を行うほか、同センターで活動するボランティアを支援するなどの連携を図ってきた。

今後も、相互の図書、資料やサービス内容について、機能分担を図りながら、情報を共有し、利用者への情報提供をさらに充実させていく。

(3) 子どもの読書環境の充実

読書を通して、子どもは、言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を豊かにするとともに、知的好奇心をふくらませ、学び続ける心が培われる。子どもが生涯にわたって読書をする習慣が身に付くよう、札幌市は「第2次札幌市子どもの読書活動推進計画」を策定したところであり、その計画を踏まえ、発達段階に応じながら、読書に親しめるきっかけづくりや環境づくりの充実を図る。

普及事業の充実

これまで各図書館では、お話し会、や工作会、映画会などを行ってきた。平成22年度からはこれらに加えて、「第2次札幌市子どもの読書活動推進計画」に基づき、「図書館デビュー」(幼児対象)「さっぽろっこ絵本づくり」(小学生対象)「さっぽろっこ出版体験」(中学生対象)などを行っている。

今後も、子どもの発達段階に応じたイベントを、内容を工夫しながら充実させていく。

図書の展示やブックリストの充実

これまで読書をするきっかけづくりとして、また、読書への関心が高まるように、時の話題や季節の行事などを踏まえて、テーマ別に図書を展示したり、また、本を選ぶ際の参考となるブックリストなどを配布してきた。今後もこうした取組について、内容を工夫しながら充実させていく。

発達段階に応じた図書、資料の充実

乳幼児、小学生、中学生、高校生と発達段階に応じて、また、学校教育の学習内容にも配慮しながら、図書、資料の収集の充実を図る。

併せて、子どもたちの読書を支援するための研究資料や児童文学の調査研究に役立つ資料について収集し、子どもの読書環境を充実させていく。

障がいのある子ども向け資料の充実

これまで障がいのある子どもも楽しむことができる大型絵本や大活字本、点字絵本などを収集してきた。

今後は、身体障がいにとどまらず、発達障がいや学習障がいなど、多様な障がいのある子どもたちの読書を支援するため、関連する図書の収集をはじめ、支援の方法について研究を進めていく。

外国語の子ども向け資料の充実

外国語の絵本や児童図書の収集については、外国人のみならず日本人にとっても外国の様々な文化や考え方の理解の促進につながることから、これまで収集を行ってきたが、今後も、利用状況などを考慮しながら収集を行っていく。